

山口院長は奈良県南
部、上北山村と川上村の
診療所で長らく所長を務
め、初期診療はどんな疾
患でも対応する村の「か
かりつけ医」として総合
的医療を実践してきた。
同時に奈良県立奈良病院
などの泌尿器科に勤務
し、自身の専門分野の医
療技術に磨きをかけた。
こうした経験から、内
科的医療見識を十分に活
かした全人的泌尿器科診
療を展開している。

旭泌尿器クリニック 院長 山口 旭さん



この人あり
インタビュー特集

厚生労働省の発表によると、全国で認知症を患う人の数が2025年に700万人を超えるという。65歳以上の高齢者のうち、実に5人に1人が認知症を罹患することになる。超高齢化が進むなか、認知症患者や寝たきり患者の介護ケアをどうしていくかは切実なテーマだ。こうした問題に内科的泌尿器科という視点で在宅医療にも積極的に取り組んでいるのが旭泌尿器クリニック（大阪市天王寺区）の院長山口旭さんだ。（早瀬夏紀）

「内科的泌尿器科」という視点で健康支援！

「男性特有の前立腺疾患や男性更年期障害にも心の要因が大きくかわってきます。ですから、じっくりとお話を聞き、診療することを常に心がけています」

また、旭泌尿器クリニックでは認知症患者、高齢者や寝たきりとなった人の「おしっこ」の管理・ケアを在宅で診ていくことに力を入れている。

山口院長は、「脳卒中、骨折、がん、認知症などで寝たきり状態になれば、おしっこの問題が必ずついてきます。適切な尿路管理をしないと尿路感染症、局所の皮膚炎、床ずれ、脱水症、尿毒症に至ることもありますし、本人と介護者ともにストレスを抱えます」と話そう。こうした問題に排尿障害や感染症の治療はもろに内科要因との関連を考慮したうえで、治療全体の調整、水分栄養管理、適切な排尿環境

や装置の提案をすること、全身状態の改善、寝たきり悪化の防止、介護の軽減やおむつ費用の軽減、さらには心の問題の解決に努めているのだ。

「寝たきりの方のもとより、歩行が不安定な準寝たきり状態の方であつても内科的泌尿器科の考えを軸に、泌尿器科医が健康管理にかかわるのが望ましいと考えています」

積極的に在宅医療を展開する旭泌尿器クリニックでは、診療の合間を縫って平日午後7時から在宅相談の時間を設けている。「泌尿器科を訪ねるには勇気がいると思いますが、お気軽にご相談を」と山口院長は力強く話している。

プロフィール

（やまぐち・あきら）奈良県出身。平成8年自治医科大学医学部卒業、奈良県立奈良病院で臨床研修。10年上北山村国民健康保険診療所所長。奈良県立奈良病院泌尿器科勤務。15年日本泌尿器科学会泌尿器科専門医認定。17年川上村国民健康保険川上診療所所長。22年医療法人光貴会しんいけクリニック理事長。26年旭泌尿器クリニック開院。

旭（あきら）泌尿器クリニック 〒543-0027 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5番52号 ウェルライフ上本町クリニック プラザ109 ☎06・6770・0505 www.akira-uro-clinic.com